

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。生物どうしは、常に食う・食われるといった関係「食物連鎖」(= 3年生の範囲)でつながっています。私たちの食物も必ず植物か動物ですね。さて、今回は猛きん舎でおこった食物連鎖の事実です。



まずは、左の写真を見て、「何が起こったのか」そのストーリーをメモしてみてください。これが自然界のおきてなのです。

写真中央に横たわっている、ずんぐりとした生物は「ネズミ」(写真下)です。円山動物園の猛きん舎には、野生のネズミが住み着

いていました。「エサの豊富なところには、それを食べる生物もふえる」という自然のしくみでヘビ「アオダイショウ」もいるとキ



ーパーたちにはあたりまえの話でした。ところが、「ネズミ」を食べる「アオダイショウ」(どちらも野生)が無惨にもからだの中央でちぎれているではありませんか。



ここで2年生の範囲、ヘビはセキツイ動物ですから背骨があります。ちぎれた「アオダイショウ」に背骨がありますね。からだの表面は「うろこ」でしたね。

普通はここまでです。ところがここは猛きん舎、このナンバー1は、猛きん類だったのです。力関係は「ネズミ<ヘビ<猛きん」となります。



さて、何が起こったかという、アオダイショウが、ネズミをエサとして捕獲して食べはじめました。その証拠にネズミのからだの一部はとけ始めています。ところが、そ

こに猛きんが襲いかかったのです。食事のヘビは、逃げることはできません。鋭い爪におさえられ(写真左の傷右側)鋭いくちばしで襲われた(同左の傷)と考えるのが、流れです。食事のアオダイショウは逃げることはできずにその命を失ったのです。動物にとって「食事」ということは、「命をかけた真剣勝負」なのです。ゆったりと食事を楽しめる「ヒト」にうまれて良かったと思いませんか。



「学びたい」という気持ちをもって、取り組んでいますか。学校では、学ぶことが決まっています。でも社会教育施設ではきまっていないのです。ですから、それだけ好きなことが学べます。みなさんの興味関心によって。では、また。